

## 長岡市長記者会見要旨

日 時：令和5年11月7日（火）午前10時から

会 場：アオーレ長岡 東棟4階 大会議室

**【会見項目1：今年も変わらぬ美味しさ！新ブランド米も立ち上げ！  
気候変動に負けないコメ産地へ、長岡市の4つの対策】**

**（市長）**

今夏の猛暑と少雨により、長岡市でも米を中心に農作物への大きな影響が出ており、すでに緊急的な対策として、水のくみ上げのためのポンプ購入支援や農地・養鯉池の貯水機能の復旧に係る費用の支援を実施してきました。こうした中で、米の収穫が終わり、令和5年度産コシヒカリの等級が長岡市の場合、1等米比率が1割にも満たないという結果になりました。しかも作柄もやや不良ということで、農家の収入の減少に繋がっております。来年の米づくりに向けた営農意欲についても不安の声が出てきている状況です。この状況を踏まえ、次の4つの対策を柱とした米政策を展開します。

一つ目は、「農業収入保険の加入支援」です。今夏のような、農業者の経営努力では避けられないリスクによる収入減少を補償する収入保険制度への加入を促したいと思います。補助対象者は、今年10月から来年3月までの間に保険期間が開始する新規加入者および継続加入者です。掛け捨て部分の保険料の2分の1を上限額なしで補助します。予算額は4,000万円を計上しており、本日から運用を開始します。

二つ目は、「長岡うまい米コンテストによる情報発信」です。現在、検査機器による審査を終えたところで、2等米、3等米でも、食味は1等米とほぼ変わらないという評価ができています。11月23日に長岡うまい米コンテスト2023を開催して、皆様から実際に味わっていただき、長岡米の美味しさは健在だということを広くPRしたいと思います。

三つ目は、「新ブランド米の立ち上げ」です。食味を重視した「金匠」という長岡のブランド米がありますが、そのセカンドブランドとして、流通上の価値である等級ではなく、環境に優しい農法で栽培したお米を長岡環境保全米としてブランド化します。名称は「小さな生き物たちと育むお米」です。減農薬、減化学肥料栽培に加え、田んぼの中に小さな生物が生息している環境で作られたお米です。ブランドロゴは、長岡の「な」の文字をトンボやドジョウなどの生き物で表現しています。この新ブランド米を、長岡うまい米コンテスト2023で、おにぎりにしてプレゼントするほか、ふるさと納税の返礼品として限定提供する予定です。本格販売は来年度からの予定です。

四つ目は、「スマート農業の活用促進」です。

まずは、水モニタリングシステムの活用です。今年度、70の農業者や土地改良区の皆様の協力を得ながら、水田水位や水温、気象情報、用水路水位を自動的に測定できるセンサーを市内に650台設置して、モニタリングとデータを収集しました。センサーを活用した農家からは、適切な水管理ができて等級低下が防げたという声もいただいているところですが、効果がどのくらいあったかは、改めて検証しなければならないと考えています。今年の異常気象時の水田の状態をデータとして収集することができましたので、今後、長岡市で進めている循環型のバイオエコノミーや、長岡技術科学大学と一緒に取り組んでいるCOI-NEXTなどの取り組みの中

で、新たな土づくりの手法などを作っていきたいと考えています。追肥のタイミングや水の確保など暑さ対策はありますが、土の力が基本になると言われており、地力をいかに長岡の圃場で上げていくかを一つのテーマにしながら、暑さや寒さに耐えられる丈夫なお米の育成を目指していきたいと思っております。

そして、次世代園芸施設の普及による複合経営化の促進です。ICTやIoTを活用した次世代園芸施設は、気候や栽培技術に左右されず、安定的な農業生産・収入確保につながります。稲作農家の園芸複合化、新規就農者の確保を進め、長岡の農業構造をより基盤の強いものに変えていきたいと思っております。

(記者)

今夏の猛暑による農業者の収入減少について、具体的な数値を教えてください。

(農水産政策課長)

1等米から3等米に低下した減少分を、報道されているJAの仮渡金を基に算出しますと、仮渡金の減少幅が2,500円のため、1ヘクタール当たりで22万5000円の減少となり、長岡市全体の収入としては、約20億円の減少になると試算しています。

(記者)

来年度から行う新ブランド米の本格販売は、全国で販売するということですか。

(農水産政策課長)

はい。

(記者)

等級は低くても食味は変わらないということですが、市長自身の食べた感想と、長岡うまい米コンテストの呼び掛けをお願いします。

(市長)

1等米、2等米、3等米の食味は私も確認しましたが、美味しさは変わりありません。うまい米コンテストで、新ブランド米のおにぎりをご提供しますので、ぜひ長岡の美味しいお米を皆様に召し上がっていただければと思っております。

(記者)

新ブランド米の価格が決まっていたら教えてください。

(農林水産部長)

流通の中で価格が決まることにはなりますが、私どもとしては、一般コシヒカリと金匠米の真ん中ぐらいの価格で流通されればと思っております。

(記者)

新ブランド米の認証基準について具体的に教えてください。

(農水産政策課長)

農薬、化学肥料を通常より5割削減する特別栽培に加えて、冬期湛水による生物多様性の維持や、温室効果ガスの削減などの環境に優しい農法を実施しているお米を認証しています。

(記者)

市長は新ブランド米の立ち上げによって農家にどのような支援になって欲しいと考えていますか。

(市長)

小さな生物がいて、それを鳥が来て食べ、その糞で微生物が増えていくような田んぼで育った、環境に優しいお米をブランド化するものですが、これにより長岡のお米がもっと売れるようにしたいと考えております。

(記者)

新ブランド米の生産農家数や生産量を教えてください。

(農水産政策課長)

栽培基準に適合して市が認定している生産農家は約60軒です。生産量で約2,000トンです。

(記者)

新ブランド米は、市が認証するということでしょうか。

(農水産政策課長)

はい。

(記者)

新ブランド米は、コシヒカリだけが対象ですか。

(農水産政策課長)

コシヒカリに限らず認証基準を満たした農法で作られたお米を対象にします。

(記者)

新ブランド米は主食用米ですか。

(農水産政策課長)

はい。

(記者)

新ブランド米の認証は、書類などを提出してもらい審査するというのでしょうか。

(農水産政策課長)

はい。

(記者)

認証の審査において、現地調査は行いますか。

(農水産政策課長)

現地確認をさせていただきながら認証します。

(記者)

J Aを通じた流通を考えていますか。

(農水産政策課長)

J Aのほかに、直接米穀店を通じた販売などいろいろな流通があります。

(記者)

認証されることで、専用の袋やシールを使って販売することができるようになるイメージですか。

(農水産政策課長)

認証シールを貼った形で販売したいと思っております。

(記者)

新ブランド米の認証においては、等級は問わないということでしょうか。

(農水産政策課長)

等級は問いません。あくまで栽培方法に着眼したブランドです。

(記者)

一般コシヒカリよりも少し高めの価格を想定しているというのは、1等米の一般コシヒカリですか。

(農林水産部長)

あくまで等級は流通系の歩留まりになりますので、店頭では等級で価格を分けることはないと思います。

(記者)

高付加価値米は1等米ということが大体条件に入っていると思いますが、新ブランド米ではその条件を外しても、市場が価値を見いだしてもらえる見込みがあると考えていますか。

(農林水産部長)

あらゆる分野で環境に優しいことがテーマになる中で、長岡がそうした環境にチャレンジするということは価値のあることだと考えております。それを消費者にしっかりとPRしながら、農業者の意識も高めて、産地としての長岡のイメージを作っていきたいと思っています。

(記者)

新ブランド米の立ち上げは、今年のような極端な猛暑、渇水で等級が落ちた時に農家を助けるためというところもあるのでしょうか。

(農林水産部長)

猛暑や渇水対策と、環境に優しい農法というところとは別の話になりますが、そういう環境の産地だから応援したくなるような消費者意識が醸成されるといいと思います。

(市長)

実際に食べてみると、等級による食味に差はなく、いずれも美味しいです。等級にかかわらず、おいしい長岡のお米を食べていただきたいという思いがあります。

まだエビデンスはありませんが、環境に優しい農法で栽培されたお米は、健康にもいいと思います。環境に優しいとともに、人間にも優しい美味しいお米であるブランドを、評価する消費者はいるのではないかと考えております。農家の皆様が天候の影響による等級の差にあまり左右されず、環境に優しい農法で栽培していけば売れるということを証明していきたいというのが私の思いです。

(記者)

基準である環境に優しい農法で栽培されたものが全て新ブランド米に認証なりますか。それとも食味検査など他のハードルはありますか。

(農水産政策課長)

認証の基準は環境に優しい栽培方法のみです。申請を受けたものを市が審査して認証します。

(市長)

食味には自信があるのでチェックはしないということです。

(記者)

今後、生産農家や生産量をどれくらい増やしたいといった目標がありましたら教えてください。

(農水産政策課長)

具体的な目標は設定していませんが、ブランド発信することで環境に優しい農法に取り組む農業者が増えてほしいと考えております。

(記者)

農業収入保険について、保険料の2分の1を補助するというのは、他の自治体の事例と比べても、大きな支援だと思いますが、長岡市としてどのような効果を期待しているのか教えてください。

(市長)

大きな減収が生じて、来年の作付けを迷っている農家もいると聞いております。農業収入保険に入っていれば補填されて、米づくりを続けていただくことができます。持続的な長岡の米づくりを実現したいという思いがあります。大規模農家や法人にも経営の安定化をしてもらいたいと考えて保険料の上限は設けていません。

(記者)

収入保険の新加入者だけでなく、継続加入者も支援の対象に含めていることについてお考えをお聞かせください。

(市長)

いずれの農家も異常気象によるダメージを受けておられますので、区別することなく支援したいと思っています。収入保険が定着して支援がなくても継続していただける状況になれば一番いいと考えています。

(記者)

新ブランド米の立ち上げについて、このタイミングで長岡が取り組むきっかけや経過を教えてください。

(市長)

長岡市が取り組んでいるバイオエコノミーの中心は農業、米づくりであり、そこにいかに付加価値をつけるかということがテーマになっています。環境に優しいということは大きな付加価値になると思い、それを新ブランド米の立ち上げで実現しようというものです。加えて今回の異常気象による等級低下でも、食味は変わらず美味しいということをアピールする2つのねらいがあります。

(記者)

新ブランド米のブランドロゴについて、デザインした方や、このデザインになった過程を教えてください。

(農水産政策課長)

ブランドロゴは、長岡市内のデザイン事務所から複数案をもらい、農業者の意見を入れながら、農産物などのブランディングをしている長岡産食材ブランディング委員会で決定しました。

(記者)

ブランドロゴのデザインに込められた意味を教えてください。

(農林水産部長)

お米の粒を背景にトンボやドジョウ、オタマジャクシがあしらわれているデザインになっています。昔は田んぼにいろいろな生き物がいて、子供が遊んだり、散歩をしたりしたという話があり、環境に優しい農業をすれば、結果的にそうした長岡の田園風景が保たれるところが良いということで、このデザインに決まったと聞いております。

(記者)

農業収入保険の現在の加入率や保険料はどれぐらいでしょうか。

(農水産政策課長)

面積ベースで約3割強が収入保険に加入しています。

保険料については、5年間の平均で基準収入が決まり、基準収入が保険料の額の算出に繋がります。農家の規模により収入は大きく変わりますが、例えば基準収入は1,000万円で、1,000万円の補償の場合、保険料の掛け捨て部分が8万5,000円となります。この2分の1を支援するという制度になります。

(記者)

農業収入保険の加入支援は、今回の気候変動に伴う影響を鑑みての緊急措置的な支援だと思いますが、持続可能な農業経営の支援という面も踏まえて、単年度の施策として考えているのか、次年度も含めて継続的な施策として考えているのかお聞かせください。

(市長)

まずは、保険の必要性を認識していただきたいと考えて、今回の補助制度を導入しました。必要であれば次年度以降も考えていきたいと思いますが、補助を継続し続けるのではなく、いずれはそれぞれの経営の中で、支出していただきたいと思っております。

## 【その他の質問】

(記者)

米百俵プレイス東館の工事業者が決まらず、オープンが1年にずれ込む見通しとなったことについて、改めて市長の受けとめをお願いします。

(市長)

経費を算定した以降の急激な物価高騰が大きく影響したためですが、結果的に完成が遅れ、事業費も膨らんだということについて、市民の皆様に申し訳なく思っております。今後の物価変動の可能性もありますので、できるだけ早く議会の議決をいただいて、入札し業者を決め、着工していきたいと考えております。

(記者)

これまで何回かこの工事をめぐって入札不調になりましたが、設計の一部変更などは選択肢として考えていますでしょうか。

(市長)

今回の予算の追加にあたって削れるところは削りましたが、基本的な設計は変えていません。設計し直すということになると、時間もかかりその間に物価高騰が起こるなど、リスク要因が増えるためです。

(記者)

先日、栃尾地域でクマによる人身被害が発生し、対策本部会議が開かれるなどの対応がありました。その後の市内の状況や注意喚起についてお聞かせください。

(市長)

被害があった当日と昨日もドローンで上空からクマの姿が見えないか確認したほか、職員が現地に向いて注意喚起や周辺状況を確認していますが、今のところクマが周辺に残っているといったことは確認されていません。一応の安全は確認されていると考えておりますが、冬眠前の時期であり、また被害が起きないとも限りません。登下校では、クマよけ鈴を着けて、付き添いとで安全を図り、必要に応じてスクールバスも増便したいと思っております。地域にはチラシの配布やSNSでの注意喚起をしており、冬まで継続して、厳戒態勢を続けていきたいと思っております。

(記者)

昨日、新発田市で設置したクマ捕獲わなの様子を見に行った男性が被害に遭いました。こうした事例も含めて市民への注意喚起が必要だと思っておりますがどのようにお考えでしょうか。

(農林水産部長)

わなを仕掛ける場所は、出没の可能性が高いことと、仕掛けること自体が誘ってしまう原因にもなりますので、住宅付近や、人が行くところには仕掛けないよう注意しています。また、クマのわなを仕掛けたら必ず注意看板をつけて、周辺地域の方には絶対近づかないように改めて周知はしています。